

和歌山県庁文化国際課メールマガジン★NO.20★

「三寒四温」とはよく言ったもので寒暖を繰り返しながら今年の春もようやく訪れたようです。春らしい温かさを感じる今日この頃ですが皆さんいかがお過ごしでしょうか。



3月は別れと出会いの季節。4月からの新生活に向け準備を進めている方もいらっしゃると思います。中国語交流員の程も4年の勤務を終え、新天地へ旅立ちます。彼の思いを込めた文章もありますので是非お読み下さい。それでは今年度最後のメルマガをお届けします。



◆文化国際課だより◆

青少年交流事業レポート：ブルネイ編



昨年11月30日から12月6日にかけて、和歌山県が交流を続けているブルネイのヤヤサン高校から6名の学生と2名の引率者が来県しました。

一行はまず、元駐ブルネイ日本国大使である仁坂吉伸和歌山県知事を表敬訪問しました。知事は、ブルネイでの経験を元に、和歌山とブルネイは人口がそれほど多くなく自然が豊かなこと、穏和な人が多いことなどの共通点があると紹介しました。また、和歌山県の特産である梅は健康にも良く、ジュースなどもあるのでぜひ滞在中に試してほしいといった話がありました。ブルネイ側からは、今回の訪問をとっても楽しみにしていたとのことで、受け入れへの感謝が述べられました。

その後、訪問団はプログラム前半で県内各地を訪れ、日本の文化を体験するとともに、和歌山の産業や世界遺産についての理解を深めました。和歌浦にある番所庭園では、日本庭園と青い海と空が一体となった美しい景色に感動し、たくさん写真を撮る姿が見られました。花王和歌山工場では、資源を大切に作る最先端の取り組みについて学び、湯浅の角長では、伝統的な醤油造りの様子を見学しました。紀南では、仙人風呂の足湯で温泉を満喫したり、熊野古道を実際に歩き、世界でもめずらしい“道の世界遺産”の魅力に触れたりしました。

後半は、姉妹校である慶風高校との交流プログラムがありました。また、滞在最終日には、昨年8月にブルネイに派遣された和歌山の青少年と再会し、昼食の時間や和歌山城見学を通じて交流を深めました。

今回和歌山を訪れた学生達からは、「和歌山でたくさんの人と出会い、様々な貴重な経験をすることができた。まだ帰りたくない。」といった嬉しい言葉を聞くことができました。



今後も、ブルネイとの友好関係を育み、交流を続けていきたいと思っています。

青少年交流事業レポート：スペイン・ガリシア州編

和歌山県とスペイン・ガリシア州は、それぞれ「熊野古道」と「サンティアゴへの道」を有し、1998年に姉妹道提携を結んで以来、様々な分野での交流を行っています。2010年からは青少年代表団の派遣・受入を毎年行っていますが、今年は3月7日～14日の1週間、15名の高校生、大学生が現地を訪れ、学校訪問やホームステイなどを通じ様々な交流を行いました。



参加者の感想を紹介します

和歌山大学 永野杏奈

今回参加させていただいたガリシア研修は、いままでにない貴重な経験となりました。言葉を超えたあたたかいおもてなしは喜びと感動を感じました。

ただ旅行で行くだけでは経験できない学びがたくさんありました。表敬訪問や語学学校でのプレゼンテーション、ZARAの工場見学、ホストファミリーなどは旅行ではできない経験です。

ガリシア州政府表敬訪問では和歌山県とガリシア州の固い絆を感じる事が出来ました。大臣は、訪問団一人一人とあいさつを交わり、丁寧な心遣いで歓迎してくださいました。



語学学校でのプレゼンテーションでは、私たちは日本の文化と和歌山の文化を紹介しました。私は弓道について担当し、弓道の歴史や世界大会が開かれるなど弓道の世界が広まりつつあることを話しました。つたない英語でしたが、弓道の魅力を伝えられたと思います。語学学校ではスペインから遠く離れた日本の言葉を勉強している学生にたくさん出会い、彼らのプレゼンは日本語でスペイン・ガリシアについて行われました。少しの間です

が彼らと話をすることが出来て、今の私たちがないがしろにしつつある日本の文化をおもしろいものだと伝えてくれました。スペインの生活や日本の良いところを外の視点から教えてもらいました。

ZARAの工場見学では、グローバルに働くということをイメージすることが出来ました。さまざまな国籍の人が同じ場所で一つのことに向かって取り組む姿を見学しました。工場見学で今まで選択肢になかった働き方を見つけることが出来ました。私にとっては大きな変化だったと思います。

ホストファミリーには大変お世話になりました。仕事を休めないホストファミリーに代わって、英語を話せる友人を紹介してくれました。その友人は英語が話せないホストファミリーの間に立って朝から晩まで一緒にいて通訳をしてくれました。ファミリーも積極的に身振り手振りでコミュニケーションを取ろうとしてくれて、さらに本当のお母さん、お父さんのように接してくれ、抱きしめてくれました。また、街のカフェにいたガリシア音楽隊にプライベートコンサートを聞くように交渉してくれて、街のみなさんと音楽で交流できたことは大変うれしく、あたたかい思い出です。ホストファミリーだけでなく、ガリシアのみなさんのあたたかさや生

活に触れることが出来ました。別れるとき、「ここはもうあなたの家よ」と言われた時はうれしくて泣いてしまいました。海外に会いたいと思う人や帰りたいと思う場所が出来ました。

ガリシアは豊かな自然に恵まれています。海岸から見た大西洋や、牛や馬が歩くおだやかな草原は息をのむ感動があります。巡礼道も豊かな自然の中にあります。今私たちが見ている景色は何百年も前の巡礼者が見た景色のままでしょう。巡礼者はこの景色を見てどう思ったのか、変わらない景色の中で昔の人の想いを考えるという経験が出来ました。巡礼体験をして、大聖堂に入ったとき、あまりの壮大さや荘厳さは驚きました。今なお巡礼者がたくさんいる理由が分かりました。キリスト教の信者ではない私があれほど感動したのなら、遠い昔、写真もなかった時代に人づてに聞く大聖堂の話に頼りに、身体の限界に挑みながら巡礼の旅をした巡礼者の感動は計り知れないと思いました。信仰は違えど、熊野古道も同じだと思います。人の信じる心や、拠り所となる場所は人が訪れるほどに見えない力をもって人々に語りかけるように思いました。

今回の研修で、初めて学ぶことや改めて気づかされたことがたくさんありました。自国の文化を再認識し、スペインの文化を初めて学びました。スペインの文化はたくさんの民族や文化、歴史が混ざり合っています。日本は島国で独自に発展した文化があります。古臭いもの、と他の文化に目が行きがちですが、自国の文化に誇りを持って生きることが大切です。他国との相違点や共通点を理解し、お互いに認め合うことが国際交流だと思います。海外の視点に立って考え直すことが出来ました。ガリシア州の青少年派遣団が和歌山へ来るときには私がしてもらったおもてなしや歓迎を感謝し、私なりの方法でお返ししたいです。その時には日本の文化を、誇りを持って伝えられるようになっていたいと思います。



<歓喜の丘にて集合写真>



県人会子弟の来県



和歌山県は全国有数の移住母県であり、和歌山県の国際交流の原点です。和歌山県出身で海外で活躍されている方々は、それぞれの渡航先国で県人会を組織し、その数は現在12団体を数えています。中南米県人会子弟との交流は毎年1月に行われており、訪問者は和歌山県内に3週間滞在し、ホームステイや様々な交流を通して彼らの“根”である和歌山について学びます。今年はブラジルとペルーから大学生2名が来県しました。彼らが日本語で書いたレポートをお届けします！

アレハンドロ・カランサ・ボネリ

<ペルー和歌山県人会>

ペルー・リマを1月28日に出発し22時間の旅でした。ホストファミリーの方々が多様なところに連れていてくれました。



【和歌山城】

大きくて綺麗でとても感動しました。



【紀三井寺】

豆まきの祭りに参加してとてもおもしろかったです。

【たま電車】入口が猫の形でしたからびっくりしました。

【新宮市】ひいおじいさんが生まれた町です。



【最後に】

和歌山県と和歌山県国際交流協会（WIXAS）の人たち、お世話になった皆様に心から感謝しています。和歌山で過したことを一生忘れません。ぜひペルーに来て下さい！！

ラファエル・中西・海野

<ブラジル和歌山県人会>

サンパウロのグアルリオス空港からおよそ27時間で関西空港へ到着し大変疲れました。

【ホームステイ】

いろいろなことができうれしかったです。ホストファミリーは皆すごく元気で、温かい気持ちになりました。僕をたくさんのおところへ連れて行ってくれました。



【知事・県議会議長表敬】

【和歌山大学での交流】



【新宮市】



おじいさんとおばあさんは新宮市出身です。そこで親戚に会い、話を聞いて、おばあさんのことが少し分かった気がしました。そして、おばあさんの生まれたところへ連れて行ってもらいました。

【インターナショナルカフェ】

面白いイベントでした。皆さんが中南米のことに興味を持っていたからです。

【最後に】

日本の和歌山県を知ることができて良かったです。たくさん経験ができて、日本語の勉強もできて、大勢の人と出会えて、とても良かったです。ブラジルの和歌山県人会、自分の家族、WIXASの林さん、WIXASのスタッフの皆さん、ホームステイ先の皆さんに、心から本当に感謝します。

アメリカ・フロリダ州スピーチコンテスト優勝者の来県

和歌山県とフロリダ州は、1995年に姉妹県州提携を締結し、2015年に提携20周年を迎えました。和歌山県とフロリダ州との友好関係を更に深めることを目的として、昨年9月2日、フロリダ州にて日本語スピーチコンテストを開催しました。優勝したジジ・ロックスさんが1月に来県し、知事表敬や和歌山大学訪問、新宮高校訪問、県内世界遺産視察、国際交流団体への訪問など、様々なプログラムに参加しました。

～ジジ・ロックスさんより～



2013年に、和歌山大学で2週間のプログラムに参加したことがありましたので、もう既に和歌山県が大好きでしたが、思い出よりも今回の和歌山は、優れていました。

日本語のスピーチコンテストに優勝したので、和歌山の人たちは私をピップのように迎えてくれました。仁坂吉伸和歌山県知事も優しく迎えてくれたことを光栄に思います。懐かしい友達と会ったり、新しい観光名所に行くことができ、とても嬉しかったです。世界で和歌山が一番素晴らしい自然を持っていると思いますので、勝浦温泉でリラックスした時は最高でした。また、みなさんが私に日本語を話すよう励ましてくれまして、とても和歌山を楽しめました。和歌山フロリダ会の歓迎会に参加し、井上節子さんのところでホームステイをした後、和歌山に住みたいと思いました。JETプログラムに参加出来るよう、頑張りたいと思います。ありがとうございました。

クイズ! 海外豆知識!

中国では、毎年2月前後、最も重要な祝祭日である春節（旧正月）が盛大に祝われています。各家庭では、一年間の幸運や幸福の願いを込めて、赤色の飾り物を家中に飾ったり、切り絵や「福」の字を書いた赤色の紙、めでたい意味を表す詩句（対聯（たいれん））などを家の窓やドアに貼り付ける習慣があります。

その中、「福」の紙を上下逆さまに飾られることをよく見受けられます。では、この飾り方はどのような意味を表しているのでしょうか。

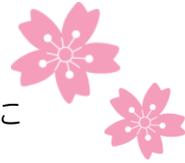
- A 「福」が家に至る。
- B 家に「福」が充満される。
- C 来客から「福」をもらう。
- D 来客に「福」を与える。



●●●●●●●●中国語国際交流員としての4年間を振り返って●●●●●●●●

花の便りも聞かれるようになりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

こんにちは。中国国際交流員の程鵬心（ていほうしん）です。文化国際課で勤務するようになってから、あっという間に四年も過ぎてしまい、本当に「光陰矢の如し」を実感する今日この頃です。



日本に留学で来た当初、様々なカルチャーショックを受け、将来は国際交流の仕事に就き日中友好の架け橋になりたいと志したことは、未だに記憶に新しいです。その夢を私にとって第二の故郷とも言える和歌山で叶えることができたのは、本当に何よりも幸せなことだと思っています。



和歌山県は国際交流事業が非常に盛んで、国際交流員の仕事も多種多様です。私の場合は、通訳と翻訳の業務以外に、県内の小中高等学校での異文化理解出張講座の実施、中国語講座の実施、海外への和歌山県の観光や食品に関する情報発信、県民との交流イベントへの参加、それから、日本と中国の青年層・シニア層の交流、環境分野の交流などの企画、運営補助。もちろん、本メールマガジンの発行も業務の一つです。また、中国関係に限らず、和歌山が緊密に交流を進めているスペイン、ブルネイ、インドなどの国や地域との交流事業にもお手伝いさせていただいております。四年間、国際交流をたっぷり経験させていただき、国際交流に対する理解もより一層深まったように思います。

また、本メールマガでも紹介したことありますが、和歌山県は私の出身地山東省とは、1984年から友好提携をしております。その関係で、中国との交流事業は、山東省との交流が大きな割合を占めています。こうして、自分の故郷と第二の故郷の友好のために微力ながら力を注ぐことができたことは、本当に幸いに思っています。



4月からこの第二の故郷から離れることになり、当初中国を離れた時の、淋しい気持ちが、久しぶりに湧いてきました。でも、“どこへ行っても、心は故郷から離れない”と確信しています。

本メールマガジンについては、第4号に私が初めて寄稿してから、気がつけば、今号で第20号になりました。毎回、国際交流員全員で知恵を絞りに絞って作成に取りかかったことも、私の貴重な思い出になっています。長い間、厭わずにご愛読いただき、本当に感謝しています。

これから私は皆様と同じように、読者として、和歌山県の国際交流に注目していきたいと思えます。



和歌山城の桜はもうすぐ満開を迎えます。今年の花見が和歌山でできないのは非常に残念ですが、またいつか、皆様とここで会いすることを楽しみにしております。

それでは、お元気で。





和歌山県職員による「異文化体験記」

「所変われば品変わる」

読者の皆様、春の足音があちらこちらで聞こえてきますが、いかがお過ごしでしょうか？

日本では新年といえば一月一日をメインにお正月を祝いますが、中国では旧暦の一月一日をメインとした旧正月を盛大に祝います。これがいわゆる「春節」といわれている祝日です。太陰暦に基づきの毎年変動するのですが、今年は二月八日が旧暦の元旦でした。

ここ最近春節といえば、日本での話題といえばなんといっても春節期間中の中国人観光客の日本での爆買いが有名ですね。私自身、中国大陸では日本以上に春節期間中に中国人の方々は爆買いをしていると思いこんでいたのですが、実際はそうではありませんでした。

確かに春節期間前は、新年を迎えるにあたり、親戚へのお土産や新しい衣服の購入、新年を祝う花火の購入、そして家族そろって食事をするので、食材の買い出しなど一年で一番出費するシーズンですが、ひとたび春節を迎えると中国の人々は家族と一緒に自宅で新年を祝うので、街には殆ど出かけません。そのため大型チェーン店を除きほとんどの町の商店は閉まり人影はほとんどなく、ゴーストタウンのようになってしまいます。また大半の人が故郷に帰り春節前は中国では期間中、三億人が帰省する民族大移動があります。

一昔前の日本でもお正月といえば大晦日までに買い出しを行い、初詣以外は家でおせち料理を食べながら一家団欒というのが普通でしたが、近ごろは元旦からスーパーなどのお店が開いているため、徐々に正月風情が失われつつありますが中国ではこの昔のお正月風情は健在です。

春節期間は中国人の知人もほとんど帰省し、お店が閉まるので、一人で春節を過ごすには、前もって買いためをしなければならず、私自身、保存のきくインスタントラーメン・缶詰・レトルト食品を買い込みました。

レトルト食品の定番といえば、カレーではないでしょうか。日本ではたくさんのレトルトカレーが販売されていますが、ここ中国でも数は少ないとはいえレトルトカレーが発売されています。

久々に日本の味が恋しくなり、日本のメーカーが製造したカレーを日本の味だと思い早速食してみました。全く日本とは異なる味でした。



中国で人気のレトルトカレー



中国のスーパーの総菜コーナーで発売されているカレー

調べてみると、日本のカレー味では中国の方々にはなかなか受け入れてもらえず、カレーを中国の大地に根づかせるため、かなり多くの人に試食をしてもらい、日本のカレーの香辛料の配合をベースに試行錯誤を重ねて現地の人の好みに合うカレーを完成させたいです。

また、中国人は黄色が濃いルーを好むらしく、日本に比べるとかなり黄色みがかっています。

また、後日スーパーで売っているカレーも購入してみると、同じく黄色みがかった日本とはかなり異なるカレーの味がしました。

食は文化の象徴でもあります。カレーはインド発祥ですが、全世界で食されています。ヨーロッパのカレーと東南アジアのカレーは全然違うものに進化しています。中国でもカレーは独自の進化を遂げようとしています。

日本の文化を世界に広めようとする時、少なからず現地のニーズを受け入れながらローカル化をしなければならないことを、春節期間中のカレーからしみじみ感じました。

〈鍵寿人（平成25年9月より中国山東省派遣・現地旅行社で研修中）〉



英語ABCコラム⑨

12歳の伝説のスピーチ

先日アカデミー賞を獲得した米俳優のレオナルド・ディカプリオが、授賞式の壇上で気候変動と環境保護への対応を訴え、喝采を浴びました。これを聞いて私が思い出したのは、今から24年前のある少女のスピーチです。今回のコラムでは、このスピーチを紹介したいと思います。

1992年、ブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミットにおいて、当時12歳だったセヴァン・スズキさんが、子供の環境団体を代表してスピーチを行いました。彼女は、I am only a child（私はまだ子供ですが）… というフレーズを繰り返し使い、子供ならではの純粋な視点で地球環境の危機について語りました。しかし、資源の無駄遣いと環境破壊を続ける大人たちに、行動を改めるように促すその姿勢は、とても子供とは思えないほど堂々としていました。自分たちの未来、地球の未来を何とかして救いたい、という思いがいっぱい詰まったこの「伝説のスピーチ」は、会場にいた各国のリーダーに衝撃を与え、世界中に大きな反響をもたらしました。

セヴァンさんの真剣なメッセージは、何度聞いても感動的なだけでなく、使われている言葉もシンプルで分かりやすく、英語の勉強にもなりますので、以下の参照先からぜひ一度聴いてみてください。

- 日本語吹替え版 → ([NHK エコチャンネル](#))

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_future_20101011_0650

- 英語版(日本語字幕付き) → ([YouTube](#))

<https://www.youtube.com/watch?v=N0GsScywvx0>

- スピーチ原文(日英) → ([NGO ナマケモノ倶楽部のページ](#))

http://www.sloth.gr.jp/relation/kaiin/severn_riospeach.html



早いものでまた一年が終わります。4月から組織改編により、文化国際課は国際課と文化学術課に分かれます。文化国際課としてのメルマガは今回が最終号となります。

皆様にはまた新生“和歌山県国際課”として、メルマガをお届けできますことを楽しみにしております。今までご愛読、まことにありがとうございました。



クイズ! 海外豆知識! の解答

正解：A

理由は中国語の発音に関係があります。

中国語では、「逆さま」の漢字「倒」と「至る」の漢字「到」とは、発音が同じです。このことから、人々が「福」を上下逆さまにして、家に幸福が到来することを願うのです。

※「倒福」⇒「到福」

また、春節の食卓に魚や鶏の料理が必ず出てきます。その理由も同じように、「魚」は「余」（余裕）と、「鶏」は「吉」と発音が似ているからとされています。このことから、中国の文化や風習は中国語からも影響を受けていることを垣間見ることができるのではないのでしょうか。